

【論文要旨】

往復はがきによるプラリア継続支援 —レスポンス率・治療継続率の向上—

岡田智史¹ 米澤幸平² 米澤孝信² 原田裕子³ 津田宏江³ 下川千賀子⁴ 米澤嘉朗²

- 1)医療法人社団橘会 整形外科米澤病院 リハビリテーション科
- 2) 医療法人社団橘会 整形外科米澤病院 整形外科
- 3) 医療法人社団橘会 整形外科米澤病院 看護部
- 4) 医療法人社団橘会 整形外科米澤病院 薬剤部

[研究背景]

当院では骨粗鬆症治療薬のプラリアの使用開始時に注射簿を作成し治療を遂行しているが来院予定日に来院されずプラリアが実施できないことがしばしばあり、中断理由が分からないまま自己中断となった症例を多く経験した。

そこで往復はがきを用いての連絡を行った結果、一時中断患者のレスポンス率、治療再開率の向上が有意に認められた為報告する。

[方法と対象]

最終投与日から210日以上経過した患者に対して電話群67名と52名(以下はがき群)の2群に分け、レスポンス率、治療再開率の差の統計学的処理を行った。

[結果]

レスポンス率は電話群53.7%、はがき群73.1%で $p=0.031$ 、治療再開率は電話群17.9%、はがき群34.6%で $P=0.030$ となった。

[考察]

レスポンス率、治療再開率は有意にはがき群が高かった。患者家族の十分な理解がレスポンス率、治療継続率向上の重要な要素なのではないかと考える。